滋賀県女性医師ネットワーク会議

2019年（平成31年）３月

滋賀県女性医師ネットワークだより vol.8

2018年の活動を振り返って

今年度、大津赤十字病院から滋賀県女性医師ネットワーク会議の委員として、初めて参加しました。委員会では10月の女性医師交流会のテーマを春から考え、“みんなが活躍できる働き方改革”に決めて、話し合いを重ねてきました。

私の勤務する病院にも、毎年、多くの若い女性医師が入ってきます。どの人もみんなやる気に満ち溢れ、知識・技術・意欲どれをとっても男性医師と比べ遜色があると思うことはありません。というより、もうそんな比較そのものがナンセンスと思えるほど、女も男も関係なく、真剣に切磋琢磨しながら臨床医として励んでいるというのが実情です。私が産婦人科としての生活を始めた約30年前に比べると、妙に気負うこともなく、ごく自然に自分の能力を活かしていて素晴らしいなあと感心することが多く、少しずつではあっても時代は動いていると感じていました。

そんな時に、8月に、東京医科大学をはじめとする女子に対する合格点差別のニュースがいきなり飛び込んできて、愕然としました。まさかこの21世紀も20年も経とうかという日本で、こんなことが行われているなんて。このことがきっかけで、多くのメディアで、女男を問わず医師の働き方についての様々な報道がされました。結果としてこの不正入試問題が、社会全体に対する一つの問題提起になったのであれば、あまりにも大きな痛みを伴った怪我の功名と言わざるを得ません。

こんな中で私たち交流会のテーマは、皮肉にも、まさにタイムリーなものとなりました。これまでは、女性医師の働き方といえばどうしても出産・育児との両立をどうするか、どうサポートするか、そのブランクをどう考えるか、がテーマとなることが多かったのですが、今回はそれ以外のライフイベントも考えてみようということになりました。女性であれ男性であれ、医師であれ誰であれ、人生で避けて通れないことは他にもある。委員の多くは出産・子育ての年代をすぎており、そんな私たちだからこそ提起できる問題があるのではないかと、今回は医師の病気や親の介護の問題を取り上げてみました。

女性医師が長く働くようになった今だからこそ、子育ての次の問題として出てくる介護の問題、そして医師自身の病気の問題、そう、これは決して女性医師だけの問題ではなく、男性医師の身にも降りかかることです。だからこそみんなで考えないといけないのではないでしょうか。今回は、時間の制約もあり、まだまだ問い足りないことも多く、次への宿題が多く見えてきた状態ではありますが、今後も女性医師も男性医師も、誰かがしわ寄せを受けることなく、みんなが輝ける働き方について、考えていきたいと思っています。

滋賀県女性医師ネットワーク会議
委員　**金　共子**
（大津赤十字病院　第二産婦人科部長）

第7回滋賀県女性医師交流会(2018年10月27日)

第７回

滋賀県女性医師交流会 報告

「え？ 私も自信をもっていいってこと？」と背中を押してもらえた交流会の一端をご報告します。

滋賀県女性医師ネットワーク会議は「みんなが活躍できる働き方改革」をテーマに第7回滋賀県女性医師交流会を開催しました(開催概要は後述)。

基調講演は『「できない」から「できる」へ変えよう～キャリアアップしていくために～』と題して、木戸道子先生にご講演いただきました。

木戸先生は日本赤十字社医療センター第一産婦人科部長として、産婦人科医師26名(うち22名が女性)を束ねておられます。年間の分娩数2911件、帝王切開術683件、婦人科手術505件という多忙な病院ですが、2交代勤務シフトにより、働きやすさと医療安全を両立されています。また、日本産婦人科学会や厚労省の委員会の中で、医療勤務環境改善と女性医師支援活動を行っておられます。

木戸先生はご講演の中で、東京医科大学などの医学部入試で女性受験者が不当に減点・差別されていた問題を取り上げられました。そして、「必要悪」なんて言わせない、若い男性を集めて酷使するビジネスモデルは時代遅れ、女性も男性もまともに働ける環境が必要、と強調されました。

また、木戸先生は、『夫が同居していると妻の女性医師の常勤率が下がる』『宿日直やオンコールの無い働き方になりやすい』『緊急呼び出しや学会出張の時も夫にこどもを預けない妻が多い』など、多くの事実をスライドにして、分かりやすく解説されました。そして、女性医師のキャリアの障壁として、保育施設の不足、柔軟な働き方の選択肢がない、女性自身の自己肯定感が低い、適切なロールモデルの欠如、女性・母としての家庭責任が重い、リーダーは男という古い概念、を揚げられました。

その上で、「できそう」ではなく「やりたい」ものを考えよう、興味を持って続けられるライフワーク

(木戸道子先生の基調講演)

に取り組もう、人生100年時代だから長期的なキャリアを考えよう、「できない」と思い込まないで！と提案されました。また、様々なサービスを使って家事・育児を外注したり、家庭内でワークシェアしたり、医師として活躍するための時間を作る方策を伝授して下さいました。また、部下を伸ばし育てるイクボスの心得についても具体例を多数挙げられました。ご講演の最後には、ご子息3人と一緒に撮られた写真と共に子育ての苦労と楽しみを披露され、自らロールモデルとなって下さいました。

講演後の質疑応答では、卜部優子先生(当会議委員)の司会のもと、開業医師、病院長、勤務医師などから様々な質問が出て、木戸先生が１つ１つ丁寧に答えられました。その中で、臨床経験10数年という女性医師から「今まで私の周りにはロールモデルが居なかった。今後、私がロールモデルになっていくためには、どうしたら良いですか？」という質問が出まし

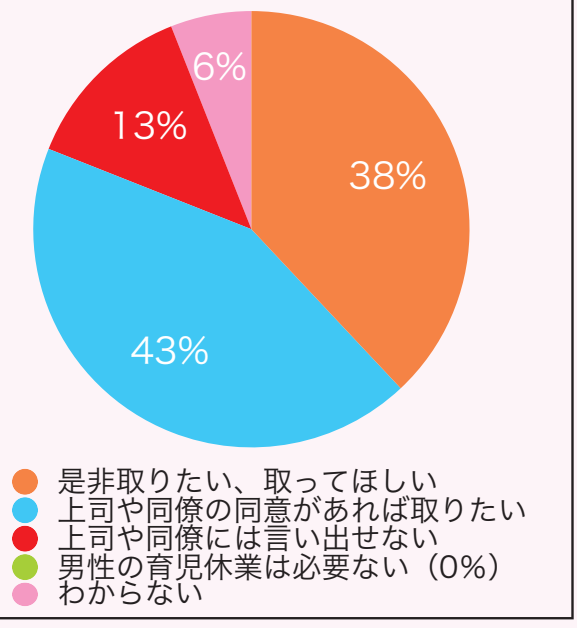
(質疑応答の様子)

た。木戸先生は即座に「あなたは、現在すでに立派なロールモデルです。どうか自信を持って下さい。自分を肯定して下さい。」と答えられました。それを聞いて「え？ 私も自信を持って良いの？　自己肯定感が少ないって、私にも当てはまるみたい。これからはもっと胸を張ろう。」と筆者を含め交流会参加者も勇気づけられた次第です。

＊＊＊＊＊＊

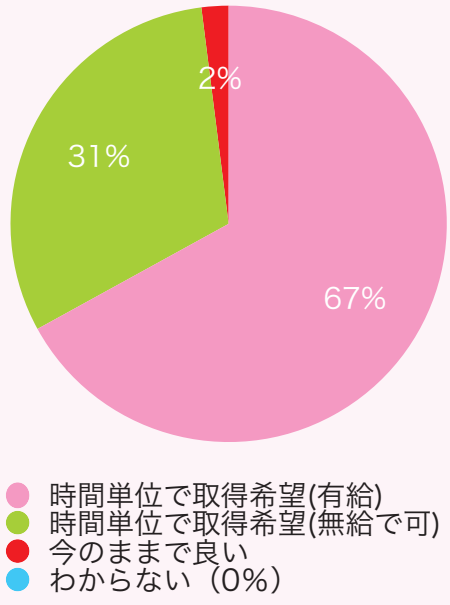
講演後、会場の皆様にケーキと珈琲・紅茶で小休憩していただき、その後に「働き方ケースカンファレンス」を開始しました。1つ目の「育児ケース」は、女性医師の出産後に夫の男性医師が男性育児休業を取るかどうか、という設定でした（担当は当会議委員の加地まり先生と山原真子先生）。ケース提示後、クリッカーを利用して会場の皆様のご意見をお伺いし、その場で集計しました（クリッカー担当は当会議委員の梅田朋子先生）。その中で、「ご自身が育児中として、男性の育児休業取得についてどう思うか？」を質問した時の集計は図1の通りで、男性育児休業について積極的な意見が多かったです。

図1: 男性の育児休業取得についてどう思いますか？



2つめの「介護ケース」は、高齢の母親が転倒して手を骨折した後、女性医師がどのような形で在宅介護をしていくか、という設定でした（担当は当会議委員の洲崎聡先生と筆者）。ケース提示後のクリッカー質問コーナーでは、介護休業と介護休暇の制度について、全く知らなかった人がそれぞれ32%と38%、詳しくは知らなかった人が52%と50%、と大変多いことが分かりました。また介護休業と介護休暇を少しでも利用したことがある人は8%と2%で少ないことが分かりました。また、介護休暇について、1日単位とか半日単位での取得ではなく、時間単位の取得を希望する人が合計98%と多い事が分かりました(図2)。

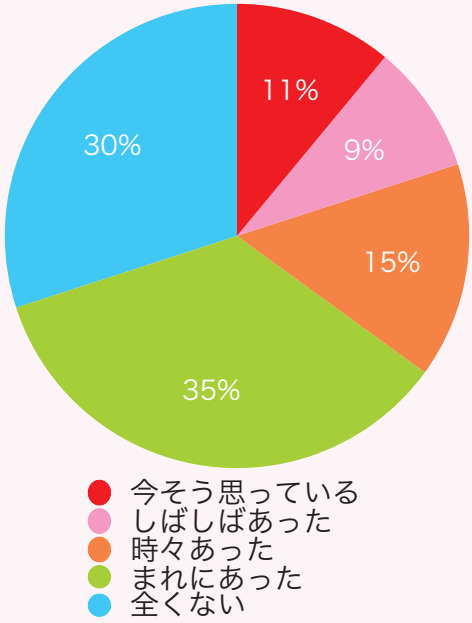
図2：介護休暇の取得を希望しますか？



3つめの「病気ケース」では、うつ病らしい部下のC医師から辞職したいと言われた上司が、どのように対応していくか、という設定でした（担当は当会議委員の西島節子先生と野田恵加先生）。ケース提示後のクリッカー質問コーナーで、『あなたはC医師のように仕事を辞めたいと思ったことがありますか？」と会場の皆様に問いかけたところ、クリッカーでの即時集計は図3の通りで、約7割の人が「病気ケース」と無縁ではないことが分かりました。

その後、当会議委員の金共子先生の司会のもと、会場の皆様の間で話し合いが行われました。会場の開業医師からは「個々の職員の事情を考えてベストな対応していると、別の職員から不公平という声が出ることもあり、対応に苦慮している」という話が出ました。木戸先生からは「何度も話し合って、お互いの

図3：仕事を辞めたいと思ったことは？



理解を深めていくことが大事」という話が出ました。出席した病院長からは「今後、いろいろな要望に耳を傾けていきたい」という話が出ました。会場から「介護休暇を時間単位で取れるようにしてほしい」という要望が出たところ、会場の病院事務職員から「当院ではすで に時間単位に変更しました」という話も出ました。医学部学生からは「卒業はまだ先だけど、今からいろいろ情報収集して考えていきたい」という話が出て、将来に繋がる希望を共有しました。

働き方ケースカンファレンスは当会として初めての試みでしたが、来場して下さった方々がクリッカーによる回答でご協力下さったこともあり、いろいろな方々のご意見を伺うことが出来ました。ご講演いただいた木戸先生と、ご来場下さった皆様に感謝いたします。この拙文をお読みいただいた皆様にも感謝申し上げます。

ケースカンファレンスの様子

当会議としては今後も皆様のご協力を得ながら、女性も男性も働きやすい職場作りを考えていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

（滋賀県女性医師ネットワーク会議　会長　有田 泉）

＜第7回滋賀県女性医師交流会の開催概要＞

テーマ：みんなが活躍できる働き方改革

日時：2018年10月27日（土曜）14:30～17:30

場所：滋賀医科大学リップルテラス会議室１

参加者：54名（病院長、病院勤務医師、開業医師、病院事務長・事務職員、滋賀県庁職員、滋賀県病院協会職員、滋賀県医師会職員、滋賀医大学生等）

主催：滋賀県女性医師ネットワーク会議

共催：滋賀医科大学／滋賀県医師会／滋賀県病院協会／滋賀県医師キャリアサポートセンター

発　行：滋賀県女性医師ネットワーク会議

会　長	有田　　泉	高島市民病院 小児科科長
副会長	梅田　朋子	滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点准教授／地域医療機能推進機構滋賀病院 乳腺外科診療部長
	洲崎　　聡	市立大津市民病院 健診センター診療部長 外科・消化器外科・乳腺外科医長兼務
委　員	卜部　優子	社会医療法人誠光会 草津総合病院 産婦人科統括部長
	加地　まり	加地眼科 院長／滋賀県医師会
	金　　共子	大津赤十字病院 第二産婦人科部長
	古倉 みのり	医療法人社団仁生会 甲南病院 理事長・院長
	西島　節子	彦根市立病院 小児科主任部長／滋賀県医師会理事
	野田　恵加	市立長浜病院 消化器内科部長
	山原　真子	滋賀医科大学 医師臨床教育センター副センター長 （以上、五十音順）

お問い合わせ先：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学病院管理課内　滋賀県医師キャリアサポートセンター
（事務局）　TEL 077-548-3656　FAX 077-548-2522
E-mail　ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp　HP　www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/
滋賀県女性医師ネットワーク会議のサイト：http://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/doc/wdnm.html